

★ 黒潮町の
ゴールデンウイーク

ゴールデンウイーク中、黒潮町内で開催されたイベントをご紹介します。

◆ 第23回 Tシャツアート展

5月1日から5日まで、入野の浜で第23回Tシャツアート展が開催されました。

今年は、高知県を含む38都道府県とハワイから一般応募が734枚、モンゴルから39枚、ハワイや国内からの応援Tシャツ46枚、オーガニックコットン協会のアーティストTシャツ90枚、合計909枚のTシャツがひらひらしました。

来場者は、5日間合わせて1万2千人以上と、昨年より多くのお客さんにぎわいました。また今年も、2日夜に高知大学学生プロジェクトBlack Wave（ブラックウエーブ）の主催する「キャンドルナイトフェスティバル」、他の日の夜は宮地電気・エムテックの協力でLEDライトアップなど、例年と違った演出も行われ、夜のTシャツアート展を楽しむ人も多く見られました。



赤・青・緑に照らされたLEDライトアップ(写真:砂浜美術館)



Tシャツや円形の2,000個のキャンドルがゆらゆら…



子どもの部・大人の部合わせて約60人が参加。最高記録は58.28ピーサン(14.57m)でした。※1ピーサン=25cm (写真:砂浜美術館)

◆ びーさん飛ばし大会 in 黒潮
(5月5日、入野の浜)



ラジコン



ジャンベ



ダンス



バイクトライアル

◆ 趣味人集合2011
(5月4日、入野・土佐西南
大規模公園内)



◆ カットと鯉のぼりの川渡しフェスティバル
5月3日、佐賀・坂折地区にて4回目となるカットと鯉のぼりの川渡しフェスティバルが開催されました。
当日はあいにくの曇り空となりましたが、伊与木川周辺はカットのぼりや鯉のぼりなど多数飾られ、祭りを彩りました。
また、会場にはカットのたきや干物など、地域産品のお店が並び、紙鯉のぼりの来場者プレゼントには、時間になると行列が。地域住民による手作りのお祭りに、大人も子どもも大いに楽しんでいました。

◆ ひらひらシンポ

5月4日、Tシャツアート展の「ひらひらの文化」について考えるシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施されました。

第1部は、Tシャツアート展の発案者・梅原真さんへの質問コーナー。

〜梅原さんへの質問と答え〜

Q. 砂浜美術館を始めたきっかけは？

(小学生)

A. 「ここには砂浜しかない」ではなく、「砂浜がある」と言えるようにしたかったから。

Q. どうしてTシャツをひらひらさせるのですか？

(小学生)

A. ニュービーズ(洗剤のCMと同じこと)をしたかったから。

など

第2部は、青年海外協力隊で訪れたモンゴルの草原でTシャツアート展を実現した西村優美さん(現NPO 砂浜美術館職員)と、Tシャツを通してモンゴルの子どもたちと交流してきた入野小学校6年生から、事例発表がありました。

「5年前、初めてTシャツアート展を見て、自然と一体となったすばらしいひらひらの風景に感動した。この催しが海外に行くことで、もっと豊かに育つて黒潮町へ帰ってくる」と西村さん。子どもたちにとっても、

モンゴルのことを学びながら、黒潮町の文化を見直すいい機会となつていくようでした。

第3部は、Tシャツアート展ゆかりの皆さんが参加したパネリストは、梅原真さん、久米信行さん、渡邊智恵子さん、アルタンさん、村上健太郎さん。司会は畦地和也さん。



パネリストは、梅原真さん、久米信行さん、渡邊智恵子さん、アルタンさん、村上健太郎さん。司会は畦地和也さん。

「ひらひらの風景」の魅力や豊かさについて、「砂浜美術館は、自然に負荷をかけない。展示をしても、片付ければ元の砂浜に戻り、思い出だけが残る。」「豊かな発想ができる人や地域・国が豊か。本質にたどりつく豊かになる。」などの意見があ

りました。

さらに、このひらひらの文化で、黒潮町と親交のある宮城県気仙沼市を支援できないか話し合い、砂浜美術館からは、Tシャツ裏にカツオの塗り絵をし、表に気仙沼の子どもたちの絵をプリントし、気仙沼でTシャツアート展を開催する「かきくけこ計画」について、何年かかっても実現するという力強い発表がありました。

最後は、会場を砂浜に移し、幡多地域のフラダンス教室のメンバーらがTシャツをバックにフラを披露。にこやかに踊るダンサーも砂浜美術館の作品となっていました。

Tシャツアート展の魅力を再確認したシンポジウムでした。



「ルアナと楽しい仲間たち」のダンサーたちがTシャツと一緒にひらひら踊りました。

◆ 大方誠心園作品展「万友引力」

4月28日から5月5日まで、道の駅ビオスおおがたで、知的障害者更生施設・大方誠心園の作品展が行われました。

同園は、7年前からスピリットアート(高知県障害者美術展)に出展し、多くの賞を受賞。黒潮町内でも作品を見てもらおうと、今年、初の作品展を実施しました。

作品は、利用者の中で書道や絵画に興味がある方が中心となつて創作。「作品を人に見てもらうことが喜びになり、次の作品につながる」と同園職員・金子さん。

1メートル以上もある大きな書や、色とりどりの絵画、デニム生地にイラストを貼り付けた作品など、個性あふれる、伸び伸びとした作品群は、見る人の心に感動を与えていました。



南郷小学校の砂浜運動会

4月15日、黒潮町浮鞭の浜で、南郷小学校の砂浜運動会が行われました。地域住民への新入生のお披露目も兼ねた恒例行事ですが、昨年は雨で中止したため、2年ぶりの開催。



2人1組で鯉のぼりを持って走ります。うまく宙を泳がせることができたかな？

この日も途中から雨となりましたが、児童たちは元気いっぱい駆け回っていました。

種目は、100m走、リレーのほか、鯉のぼりを使った競技や、ビーチフラッグなど。

最後の、1年生6人対新任教師1人の綱引きは、力を合わせて引いた1年生が大勝利を収めました。

また、日頃から浜で遊ぶことのある児童らが、地震や津波が起きたときに高台に避難できるように、避難経路も確認しました。

春のウォーキング

4月17日、四万十町「奥四万十ウォーキングコース」にて春のウォーキングが行われました。

黒潮町体育指導委員会が毎年春と秋に実施しているもので、高知県内のウォーキングコースをその歴史・文化・自然を体感しながら歩きます。

今回も、イタドリやワラビを摘んだり、ヤイロチョウの姿を探したりと、奥四万十の春を感じながら、参加者31名全員がけがすることなく完歩できました。

天候に恵まれたこともあり、参加者からは「片道約10kmという長さを感じさせない楽しいウォーキングだった」という声が聞かれました。

次回、秋のウォーキングは11月に実施予定。



下道ウォーキングセンター→久良川の入り江→軌道トンネル→昆虫の森→めがね橋の片道約10kmのコース。めがね橋を背景に集合写真。

ウミガメ産卵シーズン到来

5月11日、黒潮町佐賀の塩屋の浜で、ウミガメの産卵した跡が確認されました。役場の担当者と、通りかかった地元の漁師3人で砂浜を掘ってみたところ、深さ70センチほどのところで卵128個を発見。丁寧に掘り出し、入野の浜のふ化場へ移して埋め戻しました。

卵はピンポン玉くらいの大きさ。掘り出したときと同じ向きで埋め直し、産卵場所から取ってきた砂をかけます。これは、母ガメのにおいがついた砂をかけることで、ふ化した子ガメが、自分の生まれた浜がわかるようにするためです。

例年、5月中旬から8月にかけて産卵し、産卵から約2カ月後にふ化する見込み。



浜を散歩していた濱中桂助さん・喜多拾一さん・濱町干尚さんが、卵の掘り出しを手伝ってくれました。

選挙後初の町議会

5月11日、黒潮町臨時議会が開催されました。

4月24日の選挙後初となる臨時議会で、今期から定数が18人から16人に削減されています。

本庁3階の議場には、新人5人を含む16人が出席。執行部・議員の自己紹介のあと、投票により、議長に山本久夫さん、副議長に小永正裕さんが選出されました。

また、この日は、4月1日に採用された新入職員の紹介もありました。



あいさつする新入職員ら。写真奥が執行部、手前が議員席。



入野小学校のなかよしデイ

4月25日、黒潮町入野の浜で、入野小学校のなかよしデイ（遠足）がありました。

1～6年生の学年混合で作る14のなかよし班に分かれ、午前中は班対抗ゲーム、お弁当を食べた後は、春の遠足恒例の砂像作りをしました。

児童たちは、それぞれ役割分担をして、貝殻を拾ってかざりつけたり、海水をかけて固めたり、木の枝を使ったり、工夫をしています。短時間のうちに、クジラやイルカ、ウミガメ、ジンベエザメなど、いろんな海の生き物ができあがりしました。

支所窓口カウンター改修

佐賀支所一階窓口カウンターの改修を行いました（本年3月末完成）。

住民ニーズにこたえ、また、バリアフリー化を図るため、従来の高いカウンターを取り壊し、新しく低い（机サイズ）カウンターを設置しました。合わせて来庁者用のイスも配備したことで、手続きや相談などが座って行えるようになり、来庁時の住民負担が軽減されるなど、住民サービスの向上につながると考えています。

佐賀支所では、住民対話を第一に考え、サービス精神をモットーに、新しくなったカウンターで皆さんをお迎えしますので、手続きや相談など、お気軽にお越しください。



改修されたカウンター。幅も広くなり、手続きしやすくなりました。

あがまちNPO No.1

NPOとは、特定非営利活動法人(NPO法人)だけでなく、ボランティア団体や市民活動団体など、営利を目的とせず社会貢献活動を行う民間団体のこと。広くは、社会福祉人や社団法人なども含まれます。今日より、黒潮町内で活動するNPOをご紹介します。

高知黒潮若者サポートステーション

「何をどうしたらいいのかからない」。そんな若者の課題に寄り添い、解決のサポートをするのが「高知黒潮若者サポートステーション(通称サポステ)」です。

相談(要予約)

- ▶ PC講習 (基本操作) 一般常識
- ▶ コミュニケーション
- ▶ 学習サポート (就学支援)
- ▶ 履歴書・職務経歴書添削
- ▶ 体験活動
- ▶ 職業人セミナー (月1回)
- ▶ 地域ボランティア活動
- ▶ その他

セミナー(要予約)

- ▶ キャリアカウンセリング
 - ▶ 保護者面談
 - ▶ 心理面談
 - ▶ 訪問支援
- まずはお問い合わせください。相談はすべて無料です。



海辺の日曜日市出店参加 (販売接客体験)

※裏表紙の地図参照。
☎ 43-2320
(黒潮町入野1984-3)

- 対象者
高知市を除く県下の15歳以上40歳未満の若者とその保護者
- 開設日 水曜日・日曜日
- 開設時間 11時～18時30分
- 利用料 相談・利用料無料
- ※セミナー参加時は別途料金がかかる場合があります。
- お問い合わせ
NPO法人 青少年自立援助センター 高知黒潮若者サポートステーション